



広報誌 PLUS

第 3 号 発行日:令和 5 年12月1日

発 行 者 生活介護事業所プルスペース

～ 福祉サービスの発展のなかで ～

開所年度ということもあり知名度もない事業所ではありますが、利用されている方からの紹介や相談支援事業所、学校の先生方との繋がりから多くの方々と関わる機会を頂きました。そして、支援学校からの実習として5名の受け入れを行い、1、2年生は学外での活動や生活介護事業所での過ごし方を学んだり、3年生は卒業後の進路の検討をしたりと、生徒さんだけでなく、ご家族や進路指導の先生方も熱意を持って実習期間を支えてくださいました。

新規利用者としての受け入れや実習振り返りの場において、相談支援専門員や支援学校の進路担当の方とお話しをする機会も増え、児童から成人へと成長する過程で利用するサービスの内容が切り替わる時期の課題も共有させて頂きました。福祉サービスのあり方も「措置から契約」と変わったことで、行政ではなく利用者さん本人やご家族の希望を基に進路や活動場所を選択できるようになっています。しかし、その中でも特に生活介護事業所の利用を検討される方々は「お母さんお父さんが思う利用者さん」に合ったサービスを選択されることが多いように感じています。

今まで様々な課題を乗り越えながら生活を支え続けてきた家族の方にとって、様々な成長を促す場である支援学校での活動の様子や、学内行事や修学旅行等において集団行動の中で楽しんでいる姿よりも不安や心配が勝ってしまう気持ちも理解できます。「お母さんお父さんが思う本人さん」と、親身になりながらも「客観的に捉えた本人さん」の違いに困惑してしまい、相談支援事業所や進路担当の先生が話される本人の能力、課題に合わせた事業所の選択に納得ができないこともあるかと思えます。

そのような不安を解消する方法の 1 つとして、実習や体験を通して「事業所で頑張っている本人さん」の姿をしっかり見て、成長を受け入れて頂きたく思います。そして家族の方の希望を大切にしながらも、持っている能力が発揮できる場の選択や、課題を乗り越えられるような支援の体制についてをも考慮した進路検討の機会を持って欲しいと強く願います。

ご自宅で家族の時間を過ごされる本人さんの様子を否定しているわけではありません。家族の前でみせる姿、学校や事業所で過ごす姿、どちらもこれまで培ってきた社会性を使い分けている同じ本人さんです。福祉サービスを提供する側にとっても望まれて通って頂くことが一番です。当事業所の理念として掲げているように、持てる能力を発揮できる場でありながら場面毎の課題や困難さに対して家族を含めた支援者と利用者が互いに歩み寄り、成長を促せる場としての役割を担えるように、私達も研鑽を重ねていきたいと思えます。



～ 御挨拶 ～



いよいよ年の瀬も迫ってきており、お忙しい日々をお過ごしのことと存じます。本年は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

来る年もさらなるサービス向上を目指し、より一層の努力をしておりますので、変わらぬご厚誼を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



(有) 万葉堂
生活介護事業所
プルスペース

